

# 2018 ABLE ART AWARD

～ 障害のある人の芸術活動を支援する～

## 「エイブル・アート・アワード2018」

### 募集部門

1

画材支援  
の部

2

小さなアトリエ支援  
の部

20周年記念展 開催決定!

主催：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

協賛・寄付 (50音順)：花王株式会社 (予定)、花王ハートポケット倶楽部 (予定)、世田谷美術館さくら祭実行委員会、  
ターナー色彩株式会社 (予定)、フェリシモ基金事務局 [UNICOLART基金]、富士ゼロックス株式会社 (予定)、  
富士ゼロックス端数倶楽部 (予定)、松田油絵具株式会社

特別協力：ガレリア・グラフィカ

協力：一般財団法人たんぼぼの家、エイブルアート・カンパニー

締切 | 2018.9.30 [日] | 必着

## 画材支援の部 (ターナー色彩賞 グループ)

### アート活動支援室ぴかり/ 障害者支援施設向陽園 (北海道紋別郡遠軽町)

もともと絵具を使ってはいましたが、色数が少なく、職員が混色していました。混色で出来る色は作った人の好み影響を受けてしまうこと、くすんだ色になってしまうことがネックでした。今回ターナー賞でいただいた絵具は普段使うことのない蛍光色なども含まれており、何より利用者が積極的に今までにない色を使い始めたということが大きな変化だったと思います。おかげさまで受賞以降の作品が従来のものに比べかなりポップな仕上がりになりつつあります。新たな一面を見ることが出来、今後の表現方法の広がりにも期待が出来そうです。



## 画材支援の部 (ターナー色彩賞 個人)

### 豊島来人さん (長崎県佐世保市)

今回の受賞を受け、「大好きな絵がますます好きになった」と笑顔で語ってくれました。賞品の画材はもったいなくてなかなか使えなかったようですが、施設内でのレクリエーション等で段ボール工作の機会があり、「今度怪獣や電車を作るときに使ってみようかな」と嬉しそうに話してくれました。今までは彼の好きなものを好きなように描いてもらっていましたが、受賞後はリクエストをもらってそれに合った絵を描く機会も増えており、今後はさらに絵の幅が広がりそうです。

コメント：MINATOMACHI FACTORY スタッフ



## 小さなアトリエ支援の部

### ペンギンズアート工房/ NPO石巻広域クリエイティブアートの会 (宮城県石巻市)

助成の決定にとっても感動し、活動を評価して頂いたことがとてもうれしくエネルギーが湧いてきました。より一層、ペンギンズの活動を一歩進めるために、石巻赤十字病院のがん患者相談室にペンギンズアートを常設展示することや地域の人たちとコラボ商品を開発する計画を進めています。障がいのある人たちの中に芸術性がある人はたくさんいます。彼らのアートの力を強みとして社会に貢献できるカタチを実現する夢に向かって、いろいろなジャンルの人たちと繋がりながら、地域の人たちとペンギンズたちが楽しく生きがいもてるスペースにしていきたいです。

コメント：宮川和子 (ペンギンズアート工房)



## ソレイユ・スリヤン (東京都多摩市)

お絵描きが好きで参加してくる子どももいますが、多くの子供たちにとっては、お絵描き以前の筆遊び・色遊び・水遊びに過ぎないのかも知れませんが、隣のお友達と筆でじゃれあうことの方がずっと楽しい子どももいます。出来上がった作品には、皆あまり執着も無いようですが、その作品を見る大人たちのところには、確かに何か響くものがあり、それはもれなく瑞々しく動的な体験であるように思われます。今回の受賞を一つの契機として、より楽しく充実した集まりにしていきたいです。



## 画材支援の部 (マツダ賞)

### 尾崎聡彦さん (福岡県福岡市)

受賞後も変わらず、アート活動を行っています。いつもクーピー、水彩絵の具を使って絵を描いてきましたが、このたびマツダ賞で頂いた絵具を使ってキャンバスにパンダの絵を描くことにも挑戦しました。動物の写真集の中から自分で描きたい写真を決めて描くのですが、最近では和紙や四つ切画用紙などに何度もパンダを描いています。普段、使わない絵具で構図を工夫しながら取り組む姿は、とても集中しており楽しそうにしています。

コメント：高津由佳 (板屋学園スタッフ)

## 受賞者の声

2017年度受賞者から届いた  
メッセージの一部をご紹介します。

## 応募方法のご案内

**応募締切:**  
**2018年9月30日(日)必着**

### ● 応募方法

1. 募集案内中面の「応募票」をコピーして必要事項を記入してください。
2. 代表的な作品の写真を10点以上添えてください。作品の写真1枚につき、A4サイズの用紙1枚を使用して、写真をのりで貼り、作品の作者名・タイトル・サイズ・素材・制作年を記入してください。(画集などを提出されても結構です)
3. 「**2**」小さなアトリエ支援の部」の応募者は、活動の写真を3点以上添えてください。  
\*ご提出いただいた資料はお返しできませんのでご了承ください。

### ● 応募条件

- 「**1**」画材支援の部」受賞者への画材の贈呈、「**2**」小さなアトリエ支援の部」受賞者への資金の提供は2019年2月を予定しています。
- 応募作品は返却いたしません。
- グループやアトリエの応募に際しては代表者の同意を得たうえで応募ください。
- 応募作品または受賞作品は、主宰者または協賛者が実施する展示会、出版物などで展示・掲載・出版等されます。また、新聞、雑誌、テレビ、ウェブサイトなど広報活動、本アワードに関する報告資料・記録資料等に無償にて利用させていただく場合があります。
- ご記入いただいた個人情報に関しては、受賞の連絡及び個人を特定しない統計として利用させていただき、ご本人または代理の方の同意なしに第三者へ開示いたしません。また、受賞した場合には、受賞者の写真を氏名・年齢・居住地(都道府県まで)等とともに展覧会、ウェブサイト等において公開することがあります。

### ● 発表

選考は2018年10月中旬に行い、選考結果は10月下旬に郵送にてお知らせします。  
NPO法人エイブル・アート・ジャパンのウェブサイトでも発表します。

### ● 応募先

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14 アーツ千代田3331 #208  
NPO法人エイブル・アート・ジャパン 「エイブル・アート・アワード2018」事務局宛

### ● お問い合わせ

NPO法人エイブル・アート・ジャパン  
TEL. 03-5812-4622 FAX. 03-5812-4630 E-mail: office@ableart.org

**エイブル・アート・アワード2018  
ウェブサイト**

\*7月1日より「応募票」のダウンロードができます。

<http://www.ableart.org>

A B L E  
A R T  
J A P A N

## エイブル・アート・アワード2018 募集のご案内

エイブル・アート・ジャパンは、障害のある人たちの芸術活動を支援するために、作家の発掘、作品発表機会の提供、サポーターの育成、著作権や所有権に関する整備などを行い、多様な表現が受容される社会づくりやアートを仕事につなげる仕組みづくりなどに取り組むNPOです。

活動のひとつとして、1998年から、障害のある作家の発掘と制作現場への資金的なバックアップを目的とした「エイブル・アート・アワード」を開催しています。

20回目となる2018年度は今までの受賞作家を調査し、作品と受賞後の歩みを展示する「第20回記念展」を企画し、これまで20年の活動を振り返りつつ、これからも新たな可能性を秘めた個人の表現や小さなグループの活動を応援していきます。

みなさんのご応募をお待ちしています。

## 審査員



### 小林敬生さん

版画家/多摩美術大学名誉教授

日本版画協会理事。木口木版画を中心に制作・発表を続ける。高知国際版画トリエンナーレ審査員をはじめ、ソウル国際版画ビエンナーレ、バンコク国際版画・ドローイングトリエンナーレなどの国際審査員をつとめる。2006年、紫綬褒章を受賞。

この審査には2つの楽しみがあります。

その第1は、今までに眼にした事のある作品がどの様に変化(進化)したかを見ることが出来ることで、第2は今までに全く眼にした事の無い独創的な作品に出会えるのではないかと期待です。

いずれにしても、世の中の様々に対して衝(てら)うことなく自分の思いを素直に表現した作品こそ素晴らしい!と思います。

人はみなその人だけの感性で物事を捉えています。その感性をこそ大切にすべき何よりのものと私は思っていますから……。



### 佐藤直子さん

横浜市民ギャラリーあざみ野学芸員

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団職員。横浜美術館学芸教育グループ(当時)、横浜市民ギャラリーを経て、2014年より横浜市民ギャラリーあざみ野勤務。フェローアートギャラリーのほか、「あざみ野コンテンツポラリー」、「あざみ野フォト・アニュアル」などの企画展シリーズを担当。

審査では毎回、生きることと直結した切実な表現との出会いに驚かされます。

制作活動を始めたばかりの人、長らく作品制作を続けている人、様々な方の個性豊かで魅力的な作品をお待ちしています。エイブル・アート・アワードへの応募が、明日の制作の弾みになればと思います。



### 真住貴子さん

国立新美術館 主任研究員

東京芸術大学大学院修了。島根県立美術館、同県立石見美術館に学芸員として勤務。文化庁芸術文化調査官を経て、2015年4月より国立新美術館教育普及室長。

人が一生懸命心をこめて作った作品はみな尊く、それを見るのはとても楽しいことです。

ですので、自分で作品を作って、それを人に見せることで、すでに自分も人も楽しませているのだ、という喜びと自信をもってどんどん制作してほしいなと思います。今年も力作を期待しています。

## 応募要項

### 募集内容

### 1 画材支援の部

- マツダ賞 2名
- ターナー色彩賞 (個人) 2名 (グループ) 2団体

これから絵を描きたいと考えている人も、ますます活動に打ち込みたい人にも画材を提供します。

### 応募資格

障害のある人で、絵画や立体造形などの創作活動を行っている、行おうとしている個人またはグループ。

### 支援内容

#### • マツダ賞 油絵具1セット

MATSUDA



- ターナー色彩賞 (個人) アクリルガッシュ 20ml 36色セット (グループ) イベントカラー 550ml・スパウトパック BOXセット



ターナー色彩株式会社

### 選考基準

表現活動をしたいという意欲ある個人またはグループであること。

### 注意事項

## 20周年記念受賞者展のご案内

エイブル・アート・アワードもおかげさまで今年で20年の節目を迎え、歴代の受賞者がアワード受賞をきっかけに活躍の場を広げ、アーティストとして精力的に活動している姿にたびたび出会うようになりました。そこで今年度の展覧会は趣向を変え、アワードの歴史を振り返り、作家たちが受賞後どのような活動をしてきたか、受賞をきっかけにどのような変化があったかなどを

### 2 小さなアトリエ支援の部

#### 1 団体

自宅でもなく学校・職場でもない第3の居場所‘サードプレイス’として、障害のある人が参加・活動できるアトリエを運営する団体に活動資金を提供します。

障害のある人が参加・活動できるアトリエ。個人や有志の運営するアトリエ。

活動費 20万円 × 1団体

### UNICOLART

\* この部門は、フェリシモ基金事務局 [UNICOLART基金]により開設いたしました。基金を通じて小さなアトリエネットワークをつくり、表現活動の活性化や次世代アーティストの育成に広がります。

次世代を担うアーティストを育成し、社会に影響を与える可能性のあるグループであること。

- 社会福祉法人やNPO法人などが社会福祉事業の支援費により運営しているアトリエは対象外です。対象は【造形活動】を実施するアトリエとし、音楽、演劇、ダンス、文学、映画、ファッション、伝統芸能などはのぞきます。

リサーチして、作家のこれまでの歩みと作品と一緒に展示する「エイブル・アート・アワード20周年記念受賞者展(仮)」を開催いたします。そのため、今年度は「展覧会支援の部」の募集は行わず、記念展をギャラリー・グラフィカbis(2018年12月17日-22日)、A/A gallery(12月13日-23日)で同時開催いたします。ぜひご来場ください。

必要な枚数をコピーして、関連資料とともにご提出ください。

応募する部門の□に✓をつけてください。

グループの方は①と②の複数応募も可能です。

1.画材支援の部 希望する賞を選択してください  マツダ賞  ターナー色彩賞(個人)  ターナー色彩賞(グループ)

2.小さなアトリエ支援の部

お名前(ふりがな) \*グループの場合は施設名・アトリエ名など

年 生まれ

\*グループの場合

年 設立

代表者名 \*グループの場合のみ

住所 \*グループやアトリエの場合は、代表者または所在地

〒

TEL.

FAX.

メールアドレス

作品内容

絵画 ・ 立体造形 ・ その他 ( )

活動形態 \*グループの場合のみ

法人施設内のグループ ・ 個人、有志の運営するアトリエ ・ その他 ( )

活動場所

施設内スペースを使用 ・ 公的施設を借用 ・ 個人の所有スペースを使用 ・ その他 ( )

活動の状況 (個人の方は※印の部分のみご記入ください)

- 創作グループの構成員 受講者人数 ( ) 人 ・ 指導者(リーダー)人数 ( ) 人 ・ ボランティア人数 ( ) 人
- 年齢構成※ ( ) 歳 ~ ( ) 歳
- 障害などについて※ 身体障害者[視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・内部疾患] ( ) 人 ・ 知的障害者 ( ) 人  
精神障害者 ( ) 人 ・ その他の障害者 ( ) 人 ・ 健常者 ( ) 人
- 活動回数※ 1週間に ( ) 回 ・ 1ヶ月に ( ) 回 ・ その他 ( )
- 活動時間※ 1回あたり ( ) 時間
- 活動の年間予算規模※ ( ) 円

活動履歴 (制作活動のきっかけやその後の活動履歴、出展歴や受賞歴などがあれば記入してください、添付でも可。)

この募集をどのようにして知りましたか。あてはまる項目に✓をつけてください。

- チラシ \*どこで入手、どのように入手 ( )  ウェブサイト  フェイスブック
- その他 ( )

代表的な作品の写真を10点以上、②小さなアトリエ支援の部の応募者は追加資料として活動の写真を3点以上添えてください。詳しくは裏面の応募方法をご確認ください。